

事業名	東海北陸自動車道 白鳥～飛騨清見		事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 岐阜県郡上市白鳥町那留 至) 岐阜県高山市清見町夏蔵				延長	4.1 km
事業概要	東海北陸自動車道は、中部圏を南北に縦断し、かつ名神高速道路と北陸自動車道とを結び、中部圏における骨格的交通網交通網の中核を成し、東海地域・北陸地域の一体的発展に大きく寄与する路線である。					
S 6 3 年度事業化	都市計画決定 -			S 6 3 年度用地着手	H 1 年度工事着手	
全体事業費	2,885億円		事業進捗率	66%	供用済延長	4.1 km
計画交通量	9,700～10,800台/日					
費用対効果分析結果	B / C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.3	559/4,479億円	事業費：468/3,711億円 維持管理費：91/768億円	582/5,732億円	走行時間短縮便益：456/4,402億円 走行費用減少便益：90/931億円 交通事故減少便益：36/398億円	平成27年
費用対効果分析結果	(残事業) 1.04					
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	: B/C=1.1 (交通量 +10%)		B/C=0.9 (交通量 -10%)			
事業費変動	: B/C=1.0 (事業費 +10%)		B/C=1.1 (事業費 -10%)			
事業期間変動	: B/C=1.1 (事業期間 -1年)		B/C=1.0 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する） 物流効率化の支援（重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる） 個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される） <p style="text-align: right;">他8項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	<p><岐阜県> 本自動車道は、東海・北陸地方における最も重要な幹線道路であり、強靱な国土を形成する重要な高速道路ネットワークであることから、白鳥IC～飛騨清見IC間の4車線化事業を促進し、計画どおり平成30年度までに完成されたい。また、地域経済への波及効果が大いことから、事業を進める際には地元企業、地元特産品を活用されたい。</p>					
事業評価監視委員会の意見	対応方針（原案）のとおり了承。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成20年7月の東海北陸道前線開通以降、平均交通量が約3割増加したことにより交通集中による渋滞回数が大幅に増加しており、前回評価以降年間100回を超える渋滞が継続的に発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地取得、工事着手ともに100%					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線で供用中であり、4車線化工事の進捗を図っている。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。